

2016年9月18日(日)朝10:10～
9月第3共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第19、謝恩日等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：小羊、さばきの封印を解く③

聖書：ヨハネの黙示録 6章12～17節

＜口語訳＞

新約聖書392～393頁

ヨハネの黙示録 6章12～17節

＜新共同訳＞

新約聖書459～460頁

ヨハネの黙示録 6章12～17節

＜新改訳第3版＞

新約聖書483～484頁

ヨハネの黙示6章12～17節＜塚本訳＞

新約聖書791頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～3章22節は、エペソ教会ほか7つのアジアの教会への手紙で、4章1～11節は、「天の玉座・御座」の前での4つの生き物と24人の長老の讚美、5章1～14節は、「天の玉座・御座の父なる神の右手にある封印の巻物」を開封でき、その「巻物」を受取る屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美描写、6章1～8節は、「さばきの巻物」第1～4巻封印、9～11節は、第5巻の封印の開封箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録6章12～17節は、第6巻の封印の開封、天変地異発生箇所です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第6章12～17節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録6章12～17節；ヨハネは、仔羊(羔羊)が巻物の第6の封印を解き、父なる神と小羊の怒りによる天変地異発生を見せられました。

◇12～17節；塚本訳◆第6の封印—地震

「12 また彼が第六の封印を開いた時、見ると、大きな地震が起こった。太陽は毛の荒布の(喪服の)ように黒くなり、(満)月はすっかり血のようになり、

13 天の星は(丁度)無花果の樹が大風に揺られてその夏生りの無花果を落とすように地に落ちた。

14 また天は巻き物が巻かれるように消え去り、山と島とは悉くその場所から動かされて見えなくなった。

15 そして(これを見て)地(上)の王、貴人、将軍、富豪、権力者、また凡ての奴隸、自由人は(みな恐れて)洞穴や山の岩の間に身を隠した。

16 そして山や岩に(叫んで)言う、「我々の上に倒れ(かかっ)て、玉座に坐し給う者の御顔から、(烈しい)仔羊の御怒りから我々を隠してくれ。

17 その御怒りの大なる日が来たのだ。誰が立つ(てこの審判に堪える)ことが出来よう！」と、ヨハネは主の受取った巻物第6の開封の幻を啓示された。

◇ 12～17節；地震発生によって天変地異が発生、のあらゆる層の人々が岩間に隠れ、神と仔羊(羔羊)の怒りからの救いを逃れた山々に求めている姿をヨハネは見ました。

⇒地震発生の後、「太陽は毛の荒布の(喪服の)ように黒くなり、(満)月はすっかり血のようになり」、「天の星は(丁度)無花果の樹が大風に揺られてその夏生りの無花果を落とすように地に落ちた」が、最初の出来事です。

⇒OS師は、「殉教者たちの叫び」に答えて、神と仔羊(羔羊)の怒りが、地震及び関連の出来事を起させたと理解されています。

⇒太陽は、黒色になり、月は、血の色に染まり、天の星は、落下する現象が最初に起こります。

- ⇒これは、明らかに「**太陽、月、天の星**」が役割を終える姿を見せつつ、「**世の終わり**」を告げ、**神の仔羊(羔羊)**の再臨の時を示しています。
- ⇒次に、「**地(上)の王、貴人、将軍、富豪、権力者、また凡ての奴隷、自由人は(みな恐れて)洞穴や山の岩の間に身を隠して**」の叫びです。
- ⇒「**4つの生き物**」と「**24人の長老**」、「**天使**」は、「**讚美**」に生きていましたが、「**洞穴や山の岩の間に身を隠している人々**」には、**神と仔羊(羔羊)への讚美**はなく、**自己保身のみ**です。
- ⇒「**殉教者**」が訴えていたのは、「**自己保身者**」への**復讐**でした。
- ⇒「**殉教者・主の証人**」が、求めていた**復讐**をとめた**神の仔羊(羔羊)**が望んでおられることは、「**自己保身の救い**」なのです。
- ⇒**EY師**は、すべての人間は、「**自己保身**」であり、**異邦人伝道者パウロ**も、**キリスト者**を「**殉教**」にまで追いやった人でしたが、その**パウロ**を**神の仔羊(羔羊)**は**愛し**、彼のためにも、十字架を背負って下さったことを示すため、「**サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか**」

と、問いかけて下さったので、彼は、**神の仔羊(羔羊)の救い**に与ったのだと語り、「**今あるは神の恵み**」を**神の福音**として語っていて下さいます。

⇒「**今あるは神の恵み**」は、「**自分の貧しさや自分の弱さから解放される恵み**ではなかと思う」と、**EY師**は語っておられます(**EY師**の引用聖句; IIコリント6:2、Iコリント15:10など)。

⇒「**洞穴や山の岩の間に身を隠していた人々**」は、「**玉座に坐し給う者の御顔から、(烈しい)仔羊の御怒り**」しか、見えませんでした。

⇒**EY師**は、若くして交通事故に合い、下半身不随になった青年が、**神の福音**に出合い、自分には、物を見る目、人の言葉や美しい音楽を聞く耳、自分の意志を伝える口、健康な体が残されていることに気づき、彼の人生は全く新しくされたと、証ししておられます。

⇒私たちが、「**洞穴や山の岩の間に身を隠している人々**」ですから、**神と仔羊(羔羊)**が「**終わりのさばき執行**」の前に、**悔い改め**ましょう。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～3章22節は、エペソ教会ほか7つのアジアの教会への手紙で、4章1～11節は、「天の玉座・御座」の前での4つの生き物と24人の長老の讃美、5章1～14節は、「天の玉座・御座の父なる神の右手にある封印の巻物」を開封でき、その「巻物」を受取る屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美描写、6章1～8節は、「さばきの巻物」第1～4巻封印、9～11節は、第5巻の封印の開封箇所です。

◇ヨハネの黙示録6章12～17節は、第6巻の封印の開封、天変地異発生箇所です。

⇒第1巻は、白馬で、「戦争」、第2巻は、赤馬で「内乱・内戦」、第3巻は、黒馬で「飢饉」、第4巻は、青ざめた馬で「死」によるさばき宣告でした。

⇒これらの神の終末のさばきは、すでに地上で起こっていることではありますが、ヨハネの黙示録は、「戦争、内戦、飢饉、死」は、神のさばきであるとの認識を喚起しているのです。

⇒第5巻の封印開封は、「祭壇の下の殉教者」を、ヨハネに見せて下さる出来事であり、彼らの叫びは、「神の復讐」を求めるものでした。

⇒ヨハネも、私たち、地上の教会に属する者たち、聖書を神のことばと信じる者たちは、「復讐」は、神のなさることと信じています。

⇒第6巻の封印開封は、地震、黒い太陽、血の月、天の星落下という天変地異でした。

⇒「地(上)の王、貴人、将軍、富豪、権力者、また凡ての奴隷、自由人は(みな恐れて)」、「洞穴や山の岩の間に身を隠し」、「自己保身」に向かったのです。

⇒EY師が、**神と仔羊(羔羊)**が望んでおられることは、「**殉教者**」の求める「**神の復讐**」に**復讐天変地異の災害**で応答しつつも、「**今あるは神の恵み**」と語り、「**自己保身**」が本質の自分を認め、この福音を語ったパウロのように、迫害者を愛し、福音にいのちを賭ける異邦人伝道者に変えて下さった「**神の恵み**」に立ち返るよう語って下さいました。

⇒今地上で起こっている大災害も、年々厳しいものとなっていますが、主が再臨される時の大災害は、すべての人間が耐えられないものと信じられています。

⇒「**殉教者**」の叫びにも心をとめつつも、「**今あるは神の恵み**」と、「**4つの生き物**」や「**24人の長老**」たちの「**讚美**」に与って、今日の**神礼拝**に生かされたいと願います。

⇒「**屠られた殉教者**」の叫びは、「**神の国実現**」を切望する現実もあります。

⇒失ったものを数えず、「**今あるは神の恵み**」を数えて、「**讚美・祈り**」に真摯に向き合いたいと願います。

⇒**神の恵みの福音**は、失望に終わりません。